

## 基本目標

# 未来の担い手を育み、生涯を通じて学ぶまち

## 政策4 学校教育の推進



施策4-1 学校教育の推進

## 政策5 生涯学習の推進



施策5-1 生涯学習の推進

## 政策6 スポーツ・文化の振興



施策6-1 スポーツの振興

施策6-2 文化・芸術の振興

## 政策4 学校教育の推進

### 施策4-1 学校教育の推進

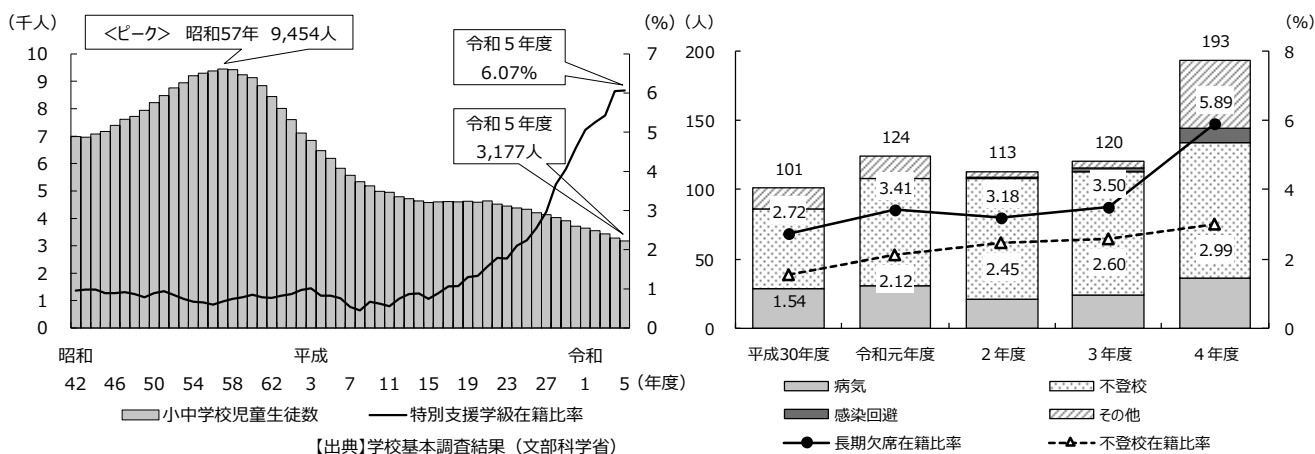
#### 【現状と課題】

- 新型コロナウイルス感染症の流行や激動する国際情勢などの影響により、社会が急激に変化し、予測困難な時代を迎えています。情報化が進展した現代を生きる子どもたちに、確かな学力と健やかな成長を保障し、持続可能な社会の創り手となる資質と能力を育む必要があります。
- インターネットを介した学習や交流、ゲームなど、子どもたちの生活スタイルが変化し、新たな教育課題が増えています。社会や環境の変化を把握しながら、いじめや不登校などの問題に適切に対応するほか、複雑な問題を抱える家庭に対しては、学校、家庭、地域が連携して、チームで支える支援体制の充実が求められています。
- 少子化や人口減少が進展する社会の中で、岡谷に生まれ育つ子どもたちが郷土に誇りと愛着を持ち、ふるさと回帰の心を育む必要があります。未来の担い手となる子どもたちが自ら主体的に考え、有用感に満たされた幸せを実現でき、将来に夢と希望を持てる教育を推進する必要があります。
- 建設から半世紀近くが経過する学校施設が多く、老朽化が課題となっているため、安全で安心して学べる校舎の整備を計画的に進める必要があります。また、少子化にあっても、豊かな人間関係を育むことができるよう、異年齢の子どもたちの交流や幼保小中の切れ目のない連携など、学びをつなぐ新たな環境づくりを進める必要があります。

#### 【資料・データ】

- 小中学校児童生徒数および特別支援学級在籍比率の推移

- 長期欠席児童生徒数および在籍比率の推移



※感染回避とは、新型コロナウイルスの感染を回避するため、本人又は保護者の意思で出席しない者、及び医療的ケア児や基礎疾患児で登校すべきでないとして校長が判断した者の数。

【出典】岡谷市教育委員会調

#### 【施策展開の方針】

- 生き抜く力と創造力、知的好奇心あふれる心豊かなひとづくり

## 【主な取組】

- 未来を切り拓く確かな学力と成長の保障

子どもたちが幸福で充実した人生を送ることができるよう、基礎的・基本的な「知識・技能」の習得を図るほか、「思考力・判断力・表現力等」および「学びに向かう力、人間性等」の知・徳・体にわたる3つの柱により、子どもたちの「生き抜く力」を育み、授業改善と学力向上を推進します。教育DXへの取組を通じて情報活用能力を高めるほか、一人ひとりに合わせた個別最適な学びと協働的な学びを提供します。

- 「ふるさと学習」の推進と地域に開かれた学校づくり

生まれ育ったまちの自然や歴史、文化や産業など、ふるさと岡谷の特徴を活かした独自の学習スタイル「岡谷スタンダードカリキュラム」の実践を通じて、子どもたちに郷土の誇りと愛着、ふるさと回帰の心を醸成する「ふるさと学習」を推進します。また、地域に開かれた学校づくりを進める「岡谷版コミュニティスクール」の充実を図るほか、学社連携により、将来に夢と希望を持ち、未来を切り拓くキャリア教育を充実します。

- 自立と共生のインクルーシブ教育の充実

障がいのあるなしにかかわらずともに学ぶインクルーシブ教育を基盤とし、一人ひとりに寄り添った特別支援教育を推進するほか、他者を理解し、思いやる力を育む人権教育、道徳教育などの充実を図ります。また、命の大切さを学ぶ「いのちの安全教育」などの取組を通じて、子どもたち自身が困難を乗り越えることのできる、しなやかで強い心を育みます。

- 多様性を包み込む魅力と活力ある学校づくり

子どもたちの個性を尊重し、多様性を包み込むあたたかな学校づくりを進めます。いじめや不登校、子どもの障がいや特性など、さまざまな支援が必要な児童生徒、家庭に対して、子ども総合相談センターおよび学びの創生・連携支援室が中心となり、チームによる支援を行います。また、学校部活動の円滑な地域移行に取り組むほか、児童生徒の体力向上と健康の保持増進などを図り、魅力と活力ある学校づくりを推進します。

- 笑顔で安心して学べる教育環境の整備

安全で安心して学べる魅力的な教育環境の充実を図るため、学校施設の老朽化に対応する長寿命化大規模改修などを計画的に実施するほか、将来を見据えた学校施設の適正規模・適正配置を検討します。また、幼児期から学齢期までの異年齢が交流でき、小中学校9年間の一貫した教育を実践する義務教育学校の設定をめざします。

## 【成果指標(KPI)】

- 指標名：学校満足度(「学校経営概要まとめ」小中学校編)

- 指標内容：長野県「学校経営概要」調査で「学校へ行くのが楽しい」と答える児童生徒の割合

指標名	後期計画	
	現状(直近実績) 令和4(2022)年度	終了時目標 令和10(2028)年度
学校満足度(小学校)	86.6%	90.0%
学校満足度(中学校)	87.6%	90.0%

## 【施策展開のための個別計画】

計画名	計画期間
岡谷市魅力と活力ある学校づくり推進プラン	令和元(2019)年度～令和10(2028)年度

## 政策5 生涯学習の推進

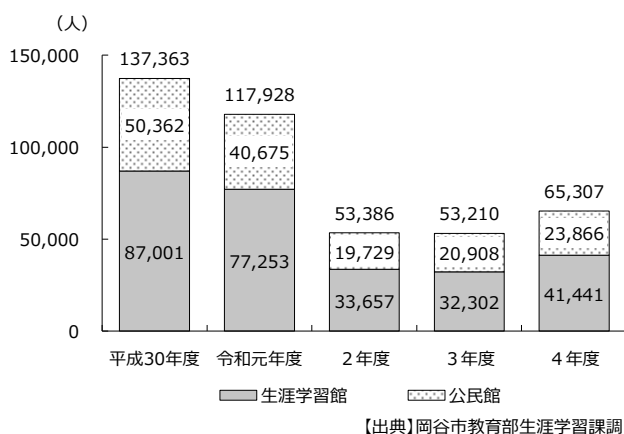
### 施策5-1 生涯学習の推進

#### 【現状と課題】

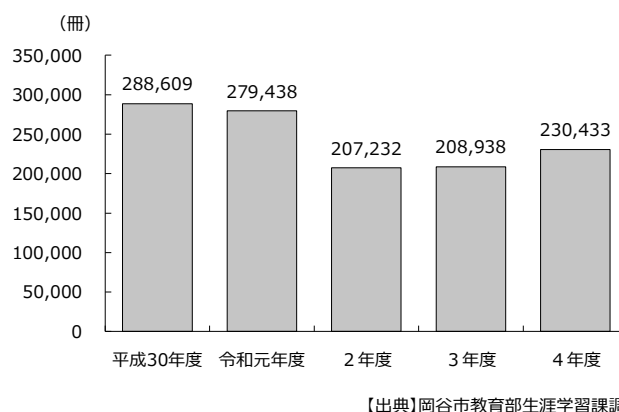
- 人生 100 年時代と言われる中で、子どもから高齢者までが生涯にわたって学び続けることのできる環境づくりが求められています。人口減少や価値観の多様化に加え、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、カルチャーセンター、公民館の講座などへの参加者や学習グループの減少、指導者の不足などが課題になっています。ICT の活用などニーズに応じた講座の企画や SNS を活用した情報発信を通じて、学習活動の活性化を図るとともに、新たな人材の発掘・育成を進める必要があります。
- 少子化、核家族化の進展や地域とのつながりの希薄化など、社会環境が変化する中で、子育ての悩みや不安を抱え、孤立を感じる家庭が増えていることから、家庭と地域の教育力の向上に取り組む必要があります。
- ライフスタイルの変化や情報化社会の進展により、青少年を取り巻く環境が刻々と変化しています。家庭、学校、地域が一体となって連携し、青少年の健全な成長を支える環境づくりを進める必要があります。
- 子どもたちに豊かな想像力や表現力を育む上で、読解力や思考力を養う読書は大切であり、また、あらゆる世代の市民の「知りたい」「学びたい」の思いにこたえ、生涯を通じて読書を楽しむことができるよう、読書活動のさらなる推進に努め、図書館サービスを充実する必要があります。

#### 【資料・データ】

##### ● 学習講座の参加者数の推移



##### ● 図書の貸出冊数の推移



#### 【施策展開の方針】

- 歴史と文化を礎に、自ら学び続け、地域で輝くひとづくり

## 【主な取組】

### ●生涯を通じた学びの推進

生涯学習に関する情報の発信により、市民の学習意欲の促進と市民ニーズや時代の変化に応じた講座など、知識、技能を獲得する機会の充実に努めます。また、生涯学習の指導者の発掘、確保に努めるとともに、学習グループや各種団体の活動を支援します。年齢・地域などを理由に誰一人取り残されないよう、デジタルリテラシー向上をめざした講座を開催するとともに、講座の動画配信などにより、いつでもどこでも学ぶことができるように努めます。

### ●家庭・地域の教育力向上

子どもたちが人間性豊かに育つことができるよう、家庭、学校、地域と連携して、保護者を応援するための学習講座の開催や親同士が交流できる機会を提供し、家庭と地域の教育力向上の支援に努めます。

### ●青少年の健全育成

家庭、学校、地域と連携・協力し、ふるさとに愛着や誇りを持ち、心豊かに成長できる環境づくりや積極的に社会に参画する子どもたちを育成するため、多様な体験活動や団体活動の機会を提供します。

### ●読書の推進

子どもから大人まで広く市民が読書に親しみの持てる環境を整えます。特に、子どもたちの読書習慣の定着を図るため、市立岡谷図書館と学校等施設との連携やボランティア団体などとの協働により、子どもの発達段階に応じた読書の機会提供と普及・啓発に取り組みます。

## 【成果指標(KPI)】

### ●指標名：①学習講座の参加者数

#### ②図書の貸出冊数

### ●指標内容：①生涯学習館、公民館における学習講座への年間延べ参加者数

#### ②図書館、公民館、保育園、幼稚園における図書の年間貸出冊数(視聴覚資料含む)

指標名	後期計画	
	現状(直近実績) 令和4(2022)年度	終了時目標 令和10(2028)年度
①学習講座の参加者数	65,307人	141,000人
②図書の貸出冊数	230,433冊	250,000冊

## 【施策展開のための個別計画】

計画名	計画期間
第6次岡谷市生涯学習推進計画	令和2(2020)年度～令和6(2024)年度
第4次岡谷市子ども読書活動推進計画	令和6(2024)年度～令和10(2028)年度

## 政策 6 スポーツ・文化の振興

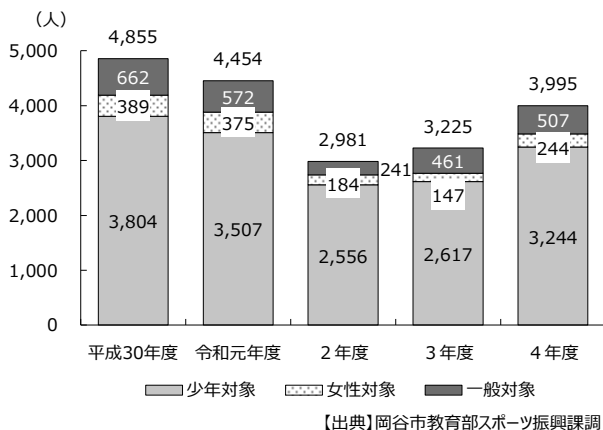
### 施策 6-1 スポーツの振興

#### 【現状と課題】

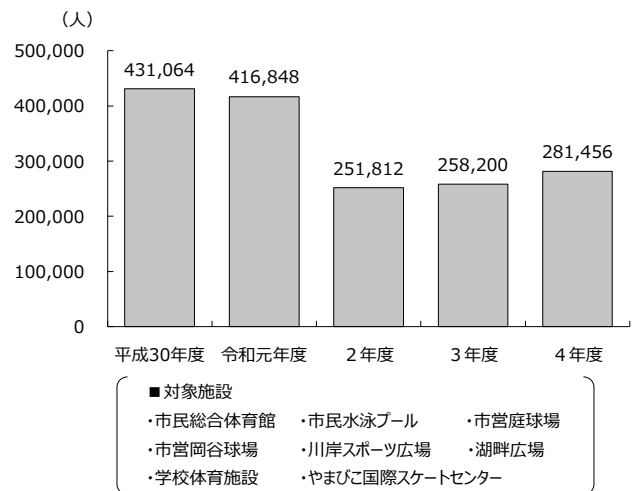
- コロナ禍の影響によって、スポーツに親しむ機会の減少が懸念されています。スポーツ施設の利用者数やスポーツ教室の参加者数が回復しない現状を踏まえ、スポーツを「する」、「みる」、「ささえる」といったさまざまな形で、誰もが気軽にスポーツに参加できる環境づくりを進める必要があります。
- スポーツ選手の競技水準の向上や育成強化、スポーツ指導者の養成が求められており、スポーツ選手の競技力向上に向けた取組とともに、スポーツ選手を支える指導者の人材育成が必要です。
- 小中学生の体力低下が全国的な課題となっている中、子どもの体力向上に向け、年齢や体力に応じて元気に楽しく運動やスポーツに取り組める環境整備を進める必要があります。
- スポーツ施設の老朽化が進行していることから、利用者の安全と安心の確保に向け、計画的に長寿命化を図るとともに、施設の一層の有効活用を推進する必要があります。
- 長野県において令和 10(2028)年第 82 回国民スポーツ大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会（信州やまなみ国スポ・全障スポ）が開催されるため、本市における開催競技の成功に向け、県や競技団体などと連携して取り組む必要があります。

#### 【資料・データ】

##### ● スポーツ教室の参加者数の推移



##### ● スポーツ施設合計利用者数の推移



【出典】岡谷市教育部スポーツ振興課調

#### 【施策展開の方針】

- 親しみ、挑戦し続ける、たくましい心と体のひとつづくり

## 【主な取組】

### ●市民ひとり1スポーツの実現

生涯にわたって運動やスポーツに取り組めるように、スポーツ団体やスポーツ推進委員などと連携しながら、幅広い年齢層の市民や障がい者が楽しく参加できる各種教室、大会などの多様なスポーツ機会の充実を図り、健康を志向したスポーツ活動を推進します。

### ●競技力の向上

全国大会などの誘致や競技力向上のための教室、大会を開催します。また、全国大会で活躍できる選手の育成を支援するとともに、指導者講習会などの開催を通じて、スポーツ指導者の養成を推進します。

### ●子どものスポーツ機会の充実

学校体育の学習の充実をはじめ、子どもたちの成長期に合わせた体力向上プログラムにより、体力、運動能力の向上をめざすとともに、スポーツを始めるきっかけづくりとして、多様なスポーツ教室などを開催し、運動やスポーツへの苦手意識を軽減させ、喜びや楽しいと思える機会を提供します。さらに、中学校運動部活動の地域移行に向けた取組を推進します。

### ●スポーツ環境の整備・充実

利用者が安全で快適にスポーツ活動を行えるように、スポーツ施設の長寿命化を計画的に進め、安全で安心な環境を整備します。

### ●第 82 回国民スポーツ大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会（信州やまなみ国スポ・全障スポ）の推進

令和 10(2028)年に開催される第 82 回国民スポーツ大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会に向け、機運醸成を図りながら、万全な開催準備を推進します。また、これを契機に、スポーツに対する市民の関心を高めるとともに、大会終了後も大会開催の成果を本市の財産として、未来へ継承します。

## 【成果指標(KPI)】

### ●指標名：①スポーツ施設利用者数

②週 1 回以上運動、スポーツをすると回答した人の割合

### ●指標内容：①スポーツ施設(市民総合体育館、市民水泳プール、市営庭球場、市営岡谷球場、川岸スポーツ広場、湖畔広場、学校体育施設、やまびこ国際スケートセンター)利用者の合計数

②市民アンケート調査で「週 1 回以上運動、スポーツをする」と回答した人の割合

指標名	後期計画	
	現状(直近実績) 令和 4(2022)年度	終了時目標 令和 10(2028)年度
①スポーツ施設利用者数	281,456 人	400,000 人
②週 1 回以上運動、スポーツをすると回答した人の割合	48.1%	65.0%

## 【施策展開のための個別計画】

計画名	計画期間
はつらつ岡谷スポーツプラン（第 2 次岡谷市スポーツ推進計画）	令和 2(2020)年度～令和 6(2024)年度

## 政策6 スポーツ・文化の振興

### 施策6-2 文化・芸術の振興

#### 【現状と課題】

- カノラホールは、優れた舞台芸術の鑑賞や市民の文化創造の場、また、次世代を担う人材育成の場として、地域文化の中心的な役割をしています。そのため、幅広いターゲットのニーズを踏まえた事業展開を実施する必要があります。
- 蚕糸博物館は、蚕糸業の歴史、文化などを全国に発信し、資料などを適切に保存しながら後世に伝承するとともに、岡谷ブランドの発信拠点また観光拠点として多くの方が訪れています。そのため、魅力的な企画展などの開催、学習活動の促進により、市民をはじめ全国へシルク岡谷の認知度を高める必要があります。
- イルフ童画館は、武井武雄を生んだ童画文化の研究、武井武雄や収蔵する作品を中心とした企画展や特色あるワークショップにより、世代を超えた多くの人々に武井武雄作品のすばらしさを伝えるとともに、日本童画大賞などを通じて、次代を受け継ぐ童画家の育成支援を進めています。この優れた地域資産である美術文化を適切に保存し、全国的にさらに発信するとともに、地域住民の方が触れる機会についてもより増やしていく必要があります。
- 市内には製糸業の隆盛を物語る近代化産業遺産群をはじめ、日本遺産の構成文化財として認定された縄文時代の多くの遺産が継承されています。これら遺産を観光資源などとして認知度を高めるとともに、地域の活性化に役立つ取組を進める必要があります。
- 絵画などの芸術作品や考古などの歴史に触れることのできる美術考古館に幅広い年齢層の来館者が訪れるよう、多様で魅力的な企画展示やイベントなどを企画するほか、SNSなどを活用して積極的な情報発信を行う必要があります。
- 市民の大切な財産である文化財を後世に継承できるよう、文化財の保護・活用に努める必要があります。
- 岡谷市史発刊から40年余が経過し、市民生活や環境などが大きく変化していることから、市の歴史や文化を後世に伝えるため、市史編さん事業を進める必要があります。

#### 【資料・データ】

- 施設入場者数の推移

(単位：人)	平成30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度
カノラホール	88,403	92,410	17,664	34,040	65,098
蚕糸博物館	28,382	29,492	12,742	15,805	18,112
イルフ童画館	33,281	28,102	15,419	20,954	19,338
美術考古館	11,709	11,894	6,651	7,435	8,000

【出典】岡谷市産業振興部ブランド推進室、教育部生涯学習課調

#### 【施策展開の方針】

- 文化芸術の拠点として、文化施設の積極的な活用
- 活動や発表の場づくりを行い、文化芸術活動を促進
- 文化財の保護・活用の一層の取組を推進



## 【主な取組】

### ●カノラホールの活用

舞台芸術文化の拠点として、優れた舞台芸術作品を鑑賞する機会の充実を図るほか、特色ある芸術作品の企画や製作に取り組むとともに、次代を担う人材、リーダーの育成や市民参加型事業の推進により、市民の芸術文化活動の活性化を図ります。

### ●蚕糸博物館の活用

養蚕、製糸業により育まれた文化、歴史、先人の偉業を全国に発信し、後世に伝承するとともに、製糸機械類を中心とした常設展示や資料などの保存、製糸工場の動態展示の充実に努めます。また、魅力ある企画展や学習活動、体験講座などの開催により、新たなシルク文化を発信し、シルクのまちづくりを推進します。

### ●イルフ童画館の活用

武井武雄や所蔵する作品を中心とした企画展や特色あるワークショップの開催、作品の適切な保存をするとともに、武井武雄の生んだ童画文化の研究をより深め、活用を図ります。武井武雄生誕130年記念事業を契機に、武井武雄の全国的な知名度向上をさらに進めるとともに、市民に対する講座機会を増やすなど、市民が武井武雄芸術に触れる機会の増加にも努めます。また、次代を担う若手童画家の発掘と支援、育成のため、日本童画大賞を開催し、童画のまちづくりを推進します。

### ●文化芸術活動の促進と人材育成

施設の特性を活かしながら各施設が連携し、市民が気軽に文化芸術活動に参加できる機会の充実や学習活動の促進を図るとともに、文化芸術団体の育成や指導者の養成に努めます。

### ●美術考古館の活用

地元出身作家による芸術作品や市内遺跡から出土した土器、土偶などを中心とする考古資料の美術考古館での展示を通じて、美術と考古双方の魅力をSNSなども活用し、広く市民に発信します。また、学校教育での活用や商店街との連携による賑わいの創出、市民の作品展示や幅広い年齢層が対象のイベント開催など、市民が気軽に立ち寄り、交流ができる学びの場を提供します。

### ●文化財の保護・活用

文化財の調査・収集および保存・保護に努めるとともに、市内に残る近代化産業遺産群や日本遺産を活用し、地域の魅力の情報発信に努めます。

### ●歴史の伝承

本市発展の歴史を市民共有の財産として後世に伝承し、将来のまちづくりに役立てるため、新たな岡谷市史の発刊に向けた市史編さん事業を推進します。

## 【成果指標(KPI)】

### ●指標名：施設入場者数

### ●指標内容：各施設の3月31日時点における当該年度の入場者数

指標名	後期計画	
	現状(直近実績) 令和4(2022)年度	終了時目標 令和10(2028)年度
施設入場者数(カノラホール)	65,098人	107,000人
施設入場者数(蚕糸博物館)	18,112人	39,000人
施設入場者数(イルフ童画館)	19,338人	35,000人
施設入場者数(美術考古館)	8,000人	12,000人

**【施策展開のための個別計画】**

計画名	計画期間
第6次岡谷市生涯学習推進計画	令和2(2020)年度～令和6(2024)年度